

- 北海道開発局は、株式会社セコマ及び株式会社セイコーフレッシュフーズと連携協力協定を締結し、緊密かつ組織的な連携・協力体制を構築しました。
- 北海道の地域社会への貢献という共通の目標の下、相互の強みを活かし、食と観光を担う北海道の地方部の「生産空間」を支える取組を推進します。

## 【開催概要】

日時：令和3年6月21日（月）14時00分～

場所：札幌第1合同庁舎

（札幌市北区北8条西2丁目10階 共用第1・第2会議室）

調印者：株式会社セコマ 代表取締役会長 丸谷智保  
株式会社セイコーフレッシュフーズ 代表取締役社長 本田竜也  
国土交通省北海道開発局 局長 倉内公嘉



丸谷会長

倉内局長

本田社長

## 丸谷会長からのご挨拶

- 北海道の地方部には農業や酪農などを支える生産空間がある。生産空間の維持は課題であり、人口密度が薄く、距離も遠く、物流の観点でも難しい地域。一方、農産物を中心に物流は多い。食と農、観光が北海道の三大事業だが、これらを振興をしていく中で、道路網の整備や高規格化は、北海道の物流と経済にとって非常に大きな効率と効果をもたらす。セイコーマートも全道の物流網を活用し、生産空間を含む過疎の地域にも多く出店。地域の生活と物流を確保して、生産空間を支える取組を日々行っている。本協定の目的である生産空間の維持・発展に資するという面では、北海道開発局と私たちは相通ずる。
- 生産空間の維持のため、地域の経済、観光の振興は非常に重要で、サイクリングなど北海道らしい魅力を発信する必要がある。観光に資する取組に協力していきたい。もともとサイクリングやツーリングをする人は、セイコーマートの店舗を目標にして走っている方も多し。そういう方々の休憩拠点になっていけると良い。この連携は、北海道の観光をアピールする上で非常に良い取組と共感。
- 災害時の物流確保は大きなポイント。少しでも早く支援物資を届けるためにはどのルートを通ればよいか、通れるかという道路情報が非常に重要。
- 北海道の発展と、災害に強いレジリエンスな社会を構築すべく、北海道開発局と今後も連携していきたい。



## 倉内局長からのご挨拶

- 北海道開発局は、第8期北海道総合開発計画に基づき、北海道の強みである食と観光の取組を推進。この食と観光を担う生産空間に人々が住み続けられるようにすることが課題。セコマグループの北海道の地域の人々の生活を支えるという理念は、北海道開発局が目指す方向とまさに一致。
- セコマグループは、「北海道ブランド」の形成や道内各地での生産拠点の整備、独自の流通網の構築など生産空間の維持に向けて取り組まれており、この協定を契機に、お互いの強みを活かしながら、連携して取り組むことができることに感謝。
- 今後は、道路の異常等を早期に発見し対応すること、大雪等において滞留車両が発生した場合の乗員保護のために物資を速やかに用意すること、北海道に優位性がある自然資源を活かしたサイクルツーリズム等の推進による地域の活性化、災害等に伴う広域的な国道の通行止め情報の共有、といった取組を進めながら、さらなる連携についても一緒に考えていきたい。





株式会社セコマ  
株式会社セイコーフレッシュフーズ

## 考え方

地域のお客様の暮らしを支えるなくてはならない存在として、さらにその魅力と価値を高めていきます

## 役割や強み

- 北海道の地域カバー率97%を超える**約1,100店の店舗**
- 北海道内の主要12箇所、本州4箇所の物流センターを拠点に、**全道各地の店舗を支える独自に構築してきた物流ネットワーク**
- 北海道の魅力を広げていける商品の企画開発や地域産業の振興等を通じた**地域活性化**



国土交通省北海道開発局

## 考え方

食料基地としての持続的発展、「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成のため、**食と観光を担う「生産空間」を支える**取組を重点的に進めています

## 役割や強み

- 北海道における河川、道路、港湾、空港、農業基盤、漁港といった**国の基幹的な社会資本の整備・管理**
- 地方自治体や国の機関等との**行政機関のネットワーク**
- さまざまな地域づくりや観光・交流に関する**地域の取組との協働活動**

## 緊密かつ組織的な連携・協力体制による取組

「生産空間」に生き残るために不可欠な**人流・物流**の確保、「生産空間」の強みを活かした**観光の振興**等に係る取組を推進

## 連携項目

**道路交通の安全性の確保**に関する取組  
**観光地の形成**に関する取組  
災害等に伴い広域的に影響が及ぶ**国道の通行止め時の情報共有**に関する取組  
**その他生産空間の維持・発展に向け両者が連携・協力することができる取組**

## 当面の取組

- ①道路の異常等の情報共有**  
セコマグループのトラックドライバーが道路の異常や破損等を発見した際に「道路緊急ダイヤル（#9910）」に通報
- ②大雪・暴風雪時等における滞留車両乗員の救援物資調達**  
冬期の大雪・暴風雪時等に長時間にわたる大規模な車両滞留が国道で生じた場合には乗員の人命に影響を及ぼすおそれがあることから、乗員保護のため食料品・飲料水その他必要な救援物資を調達する必要が生じた際に、道内各地のセコマ店舗等との連携により物資確保を実施
- ③サイクルツーリズムの推進による地域活性化**  
北海道サイクルルート連携協議会（事務局：北海道開発局・北海道）の基幹ルート沿いのセコマ店舗をサイクリストの休憩施設として案内するとともに、特に休憩施設が不足する地域のセコマ店舗へのサイクルラック設置を試行
- ④災害等に伴う広域的な国道の通行止め時の情報共有**  
社会的な影響が大きいと見込まれる災害等に伴う広域的な国道の通行止めが発生した場合に、地域のライフラインであるセコマグループと物流を支える道路インフラを管理する北海道開発局が情報共有することにより、地方部の生産空間への生活物資輸送の円滑化に貢献